

単元案の概要

単元名:雪国でつながろう！					
科目名	第二外国語としての日本語	作成日	2016年11月1日	作成者	馬氷、甲田菜津美、植田志穂、松浦幸祐 アドバイザー:杉本香、藤原京佳
学年／年次	中国の高校2年生	クラス人数	20名を想定	使用教材	テーマと関連する文献、Webページ、ビデオなど
話題分野	文化	言語レベル	レベル1	必要時間数	45分×週2コマ、20回(後期)
単元目標					
1. 吉林省の特色(雪と生活)を理解し、日本語で発表できる。 2. 吉林省へ行ってみたい！と思ってもらえる発表ができる。 3. 日本人高校生との相互発表を通して、日中の共通点・相違点を探る。					
コミュニケーション能力指標					
【自分と身近な人びと】 1-a. 名前や属性を言ったり、尋ねたりできる。 1-c.簡単な自己紹介を、口頭でまたは書いてすることができる。 【学校生活】 1-a. 学校の名前や所在地を、言ったり書いたりできる。 【人とのつきあい】 1-a. 人との付き合いでよく使う基本的な挨拶表現を、言ったり、聞いて理解したりできる。 【地域社会と世界】 1-e. 自分の住んでいる町や都市の有名な場所や食べ物などを言うことができる。					
学習活動の流れ					
語彙・表現習得活動			学習シナリオ		
●第3回～第6回 「雪と生活」にまつわる語彙マップの作成 ●第13回 発表資料の作成 ●第14回 発表で使う日本語の導入&練習 ●第17回 札幌の学生からの質問に答えるための日本語練習			<場面状況> ・中国吉林省の公立中学校(学生の年齢は12歳～18歳) ・吉林省は雪国。同じ雪国という関連から札幌に姉妹校を持つ。 ・高校での第二外国語学習の総まとめとしてのプロジェクト型学習。 ・姉妹校とビデオチャットを通して日中の文化紹介をする。 <活動の流れ> 別ページ参照		
評価活動					
形成的評価			総括的評価 ※別途ルーブリックを作成してください		
(1)語彙マップ(第6回) (2)発表資料(第13回) (3)リハーサル①②(第15回、第17回)					

学習シナリオ	
【プレ・コミュニケーション活動】	
第1回	最終目標(姉妹校との交流)提示。札幌の生活がわかるビデオを視聴
第2回	「雪」について連想ゲームをする。出てきたキーワードをグルーピング(衣、食、住、祭り、雪対策など)グループで相談し、興味関心のあるテーマ(=発表テーマ)を決定。 ◆HW:連想ゲームで出てきた語彙、表現を日本語にする。一人10個程度。
第3回	HWの語彙をグループ内での検討と、教師によるチェック&FB
【コミュニケーション活動】	
《Part1:小さい発表を体験してみる》	
第4回	グループごとに各自がHWで調べてきた語彙を持ち寄り、模造紙に語彙マップを作る。
第5回	ポスターセッションの形式で、語彙マップをクラス内で共有。
第6回	グループごとに語彙マップを整理してA4用紙1枚分にまとめる。教師は1冊にまとめて語彙帳を作成。
《Part2:調査とリハーサル》	
第7回	吉林省(中国)がどのように日本で紹介されているかがわかる資料を紹介。 (日本が出しているガイドブックや旅行番組、ドキュメンタリーなど)日本人の視点に立って、興味深い点を考える。そのうえで、語彙帳の中で日本人が興味を持ちそうな事柄、ぜひ紹介したい点にチェックする。
第8回	教師から図書館、インターネットでの資料の調べ方を紹介。グループ内で資料収集の役割分担。
第9回	資料収集①
第10回	資料収集②&個人で調べたことをA4用紙1枚分程度にまとめる。
第11回	個人で調べたことをグループ内で共有。
第12回	PPT、ポスター、スキット、クイズなど様々な発表形式の良い点、難しい点を検討し、発表形式を決定
第13回	発表資料作成
◆発表資料提出	
第14回	発表に必要な日本語の練習
第15回	リハーサル①
《Part3:発表と振り返り》	
第16回	リハーサルの振り返り (ブレインストーミングの要領で各グループ良かった点、改善点をポストイットに書き出して共有)
第17回	リハーサル②※札幌の学生の質問に答えるための日本語練習を中心に
第18回	発表①発表②(形式:各グループ10分。札幌の高校生は中国語で札幌紹介。吉林省の学生は中国語でコメントや質問などをする。吉林省の学生は日本語で紹介。札幌の学生に日本語でコメントをもらう。コメントの際は、教師の通訳を適宜交え、理解を促す。※生徒同士であると、語彙や速さなど、コントロールできない可能性があるため。)
第19回	
第20回	感想や身についたことなどを各グループで考え、クラスで共有。個人で振り返りシート記入。